

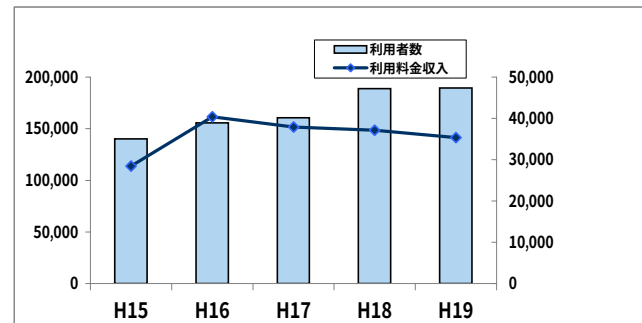
福井県立音楽堂(1/2)

ふくい音楽文化の創造と発信拠点 ～ハーモニーホールふくい～

所在地	福井市今市町40-1-1		
設置年月日	平成9年9月20日		
施設の種類	音楽ホール	施設管理主体	指定管理者 (財) 福井県文化振興事業団
設置の目的	本県における音楽文化の振興を図り、県民の芸術文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延11,649㎡ 大ホール (1456席)、小ホール (610席)、練習室 (6室)、インフォメーションセンター、展示ギャラリー		
職員数	指定管理者 常勤職員12人、非常勤嘱託1人 計13人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数 (人)	140,121	155,637	160,642	188,868	189,593
ホール利用率 (%)	59.7	72.2	74.2	63.6	71.7



利用者負担(利用料金)等

施設使用料	大ホール (休日午後)	58,000円
	小ホール (休日午後)	32,000円
	練習室 (平日夜間)	870円

(施設HPの施設概要参照)



利用状況の推移	平成14年度は開館5周年記念行事等の開催により多くの利用がありました。 平成15年度はパイプオルガン設置工事のために下半期に大ホールを閉鎖した影響で、利用者数・利用料金収入が落ち込んでいます。 平成16年度はパイプオルガンを活用した公演等の実施により、利用者数が増加し、利用料金収入も上昇しています。 平成17年度は近畿高等学校総合文化祭や国民文化祭での利用等により利用者数が増加しました。 平成18年度はちびっこコンサートでの利用等により利用者数が3年連続の増加となりました。 平成19年度は開館10周年記念事業の開催により利用者が過去最高の18.9万人を記録しました。
---------	--

施設の特徴

自主公演の開催

年間約30本の自主公演を開催し、毎年多くの方に鑑賞いただいています。公演内容は海外の超一流オーケストラ出演によるものから、小さなお子様向けのものまで幅広いジャンルとなっています。

また、子どもたちの豊かな感性を育むため、小学生から大学生までの学生を対象に、チケット料金を一般の半額としています。



ハーモニーセミナー・クリニックの開催

本県にゆかりの深いハーブやマリンバをはじめ、パイプオルガンや弦楽器等のセミナーを開催し、初めて楽器に触れるレベル(ふれあい教室)から国内最高レベル(マスターコース)まで幅広いレベルの方の育成に対応しています。

また、自主公演出演者によるクリニックを開催し、直接超一流のアーティストから指導を受ける機会を提供しています。

インフォメーションセンターの設置

CD、LD、DVD、音楽専門誌等のライブラリーを設置し、県内音楽愛好家の活動意欲を促進して音楽文化の振興と音楽団体の育成を図ります。



県立音楽堂の利用者サービス

- ・小、中、高校生を対象とした自主公演での「子ども鑑賞シート(無料)」を設置しています。
- ・インターネットから自主公演の空席状況が分かる照会サービスを行っています。
- ・公演チケットの電話申込みおよび自宅までのチケット郵送サービスを行っています。

県立音楽堂ホームページ

<http://www.hhf.jp/>

19年度の特徴について

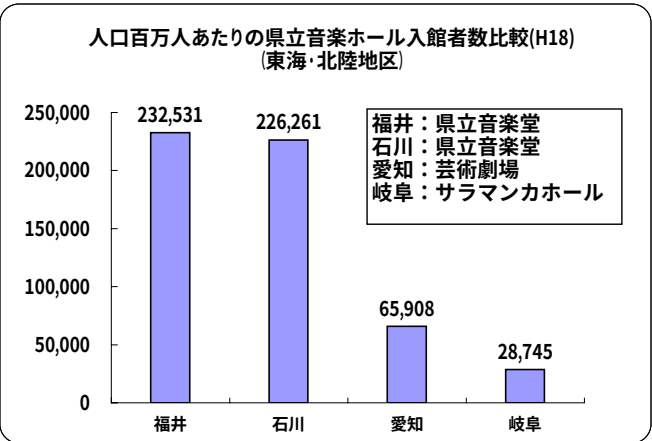
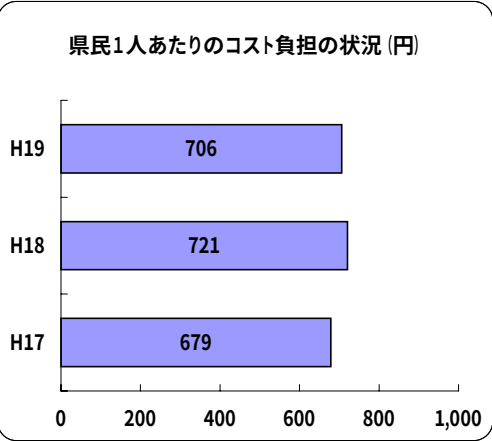
事業実績	平成18年度から指定管理者制度を導入しました。平成20年度までの3年間、(財) 福井県文化振興事業団が施設の管理及び自主事業を行います。平成19年度の指定管理料は334,883千円です。 世界のトップレベルのオーケストラ等のコンサートをはじめ、県内音楽愛好者や本県出身の著名アーティストが出演するもの等多様な公演が年間を通じて実施されました。平成18年度は、人気の高い「徳永二男の魅せるクラシック2008」や「小松長生指揮 セントラル愛知交響楽団 名曲コンサート」等11公演で、チケットが完売し、年間平均入場率は83.5%でした。 音楽活動の発表の場および練習の場として、ホールや練習室を開放しており、多くの利用がありました。特に6室ある練習室は、従来から県内の音楽愛好者や団体等により頻繁に利用されており、利用率はほぼ100%です。 パイプオルガンを利用した「オルガンコンサート 悠久の調べ」や「カルロス・ヌニョス&松居直美」などの公演を開催したほか、演奏家や指導者を対象としたオルガニスト養成講座や、気軽にパイプオルガンを体験できる「オルガン体験ツアー」などパイプオルガンを積極的に活用した事業を展開しました。
------	---

福井県立音楽堂(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度)		(単位 千円)		
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	0	0.0%	-
	退職給与引当金繰入	0	0.0%	-
	計	0	0.0%	-
物にかかるコスト	物件費	327,784	57.0%	100.8%
	維持補修費	7,099	1.2%	141.7%
	減価償却費	227,140	39.5%	100.0%
	計	562,023	97.7%	100.9%
その他	公債費(利子)	13,440	2.3%	40.9%
	その他	0	0.0%	-
	計	13,440	2.3%	40.9%
合 計		575,463	100.0%	97.5%
収入	利用料等収入	313	0.1%	28.5%
	その他収入	0	0.0%	皆減
	一般財源	575,150	99.9%	97.7%

バランスシート(平成20年3月31日現在)					(単位 千円)		
借方			貸方				
資 産		前年比	負 債		前年比		
有形固定資産	13,987,575	98.4%	固定負債	459,734	82.9%		
うち土地	4,872,000	100.0%	うち起債残高	459,734	82.9%		
うち建物	8,804,000	97.6%					
うち楽器類	298,472	97.8%					
投資等	0	-	流動負債	94,942	21.0%		
流動資産	0	-	正味資産	13,432,899	101.7%		
計	13,987,575	98.4%	計	13,987,575	98.4%		

主な指標 (単位: %、円/人)			
	H19	H18	前年比
住民1人当たり有形固定資産額	17,155	17,368	98.8%
住民1人当たり将来負担額	564	678	83.2%
世代間負担率	96.0	92.9	103.4%



バランスシート、行政コスト計算書の特色	平成18年度から指定管理者制度を導入した結果、施設の利用料金等が指定管理者の収入となり、その収入分を差し引いて委託しています。 平成19年度は開館10周年を迎え、施設の修繕費が増加した結果、維持補修費が対前年度41.7%の増加となりました。 また、建設時の借入の償還が進んだことから、借入残高・翌年償還額・利払いが大幅に減少しています。									
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	一流演奏家を招いた公演以外にも、県内音楽家や本県出身の著名アーティストが出演するものなど、県民が音楽を身近に感じることができる多彩な公演を実施しています。（92,543千円） 本県にゆかりの深いハーブ、マリンバをはじめとしたセミナーを開催し、初めて楽器に触れるレベルから国内最上級レベルまでの系統的な講座を実施しています。平成18年度からは本県の弦楽奏者の慢性的な不足解消を目指し、弦楽セミナーを開設しました。（4,801千円）									
今後の課題	平成19年度は小ホールでは利用率が目標を上回りましたが、大ホールでは目標を下回りました。 今後は月曜開館の周知徹底により、ホール利用率の向上を図ります。 ※19年度ホール利用率目標と実績 <table><tr><td></td><td>(目標)</td><td>(実績)</td></tr><tr><td>大ホール</td><td>82.9%</td><td>→ 77.2%</td></tr><tr><td>小ホール</td><td>63.7%</td><td>→ 66.1%</td></tr></table>		(目標)	(実績)	大ホール	82.9%	→ 77.2%	小ホール	63.7%	→ 66.1%
	(目標)	(実績)								
大ホール	82.9%	→ 77.2%								
小ホール	63.7%	→ 66.1%								
今後の事業方針、取り組み内容	パイプオルガン設置により、演奏可能な音楽の幅が広がったことから、これを積極的に活用し、県内の音楽文化の更なる振興を図ります。 音楽演奏を中心とした講演会やシンポジウム等での利用を広く呼びかけ、新たな利用者を開拓するとともに、ホール利用率の向上を図ります。 県民に魅力のある公演を継続して実施できるよう、また、普段、芸術音楽になじみの薄い県民や子供たちにも興味を持ってもらえるよう公演企画の充実に努めます。									